

水の週間実行委員会会長賞（優秀賞）

その名に恥じぬ星にするため

山梨県

山梨大学教育人間科学部附属中学校 二年

小平 守莉

「青い星、地球」

宇宙から見る地球は他の星と違い、優しく包み込むような深い青色をしている。

「水の惑星」とも呼ばれる地球の水の量は十四億立方メートルと言われ、その九十七％は海水、残りの三％のうち約七割が南極や北極の水が占めている。

「水の惑星、地球」

しかし僕達が生活用水として利用できる水の量は限られている。しかも国や地域によって水の量は大きな差があり、干ばつに苦しむ国も少なくない。そう、水は限りある貴重な資源なのだ。

そこで昨年の夏、僕は雨水を有効に利用できないかと考え実験を行った。

まずは雨水の収集、簡単にすぐ出来る方法として僕はペットボトルを加工し雨水を集める方法を思いついた。それはペットボトルの口にロウトをさし、ロウトにシャワーカーテンを取りつけ、それを壁に張りつける。これにより雨が当たる表面積が増え雨水はシャワーカーテンを伝いペットボトルに集まる。こうして夏休みの間に集めた雨水の量は二リットルペットボトル二十本以上にもなった。集めた雨水は靴や玄関を洗うのに使用したり、植木に水をあげたりする時に活用した。

実験の結果、軟水である雨水は硬水である水道水より洗剤の泡立ちがよく洗濯するのに適している事がわかった。僕の家では靴のほかに車を洗ったり、窓を拭いたりするのに雨水は重宝している。

気がつけば僕達の生活を支えている水は人の手によって精製された水道水だ。そしてこの水道水のもとをたどっていけば雨水にいきつく。それなのに僕達は大切な資源である雨水を活用することなく、無駄にしていたのだ。

この春「雨水利用推進法案」が参議院を通過した。この法案では雨水利用を推進するため国や独立行政法人が建築物を整備する場合、雨水利用施設を整備するよう取り組むことになっている。今まで無駄にしていた雨水を利用することで、水道の節約につながり、貯水タンクの設置で雨水の流出が減り結果的に洪水の抑制にもつながる。

また雨水の利用が普及することにより、新たな技術開発が盛んになり、家庭で水道水を精製することができたり、雨水発電といった新たな技術が生まれ、その技術がいつの日か干ばつで苦しむ人を助ける足がかりとなるかもしれない。

「青い星、地球。水の惑星、地球。」

しかし現実には世界中で七億人もの人が水不足の中で生活をしている。そしてその大半はアフリカなどの発展途上国が占めている。人が生活する上で水はかせない資源だ。そして安定した生活がおくれることで初めて産業や経済が発展するのではないだろうか？文明が生まれた場所が大河の流域であることからそのことはあきらかだ。水は作物を豊かに実らせ、人の命を育み、文明をうみだしてきた。僕達がこうして生活できるのは水があつたからだ。

今、僕の家には二リットルペットボトル八本分の雨水がストックされている。たった八本分の雨水だが、家族四人分の靴を洗うことができる。

資源である水を有効に使い、そして守っていくことが青い星地球、水の惑星地球に住む僕達の使命ではないだろうか。

そしていつの日かその名に恥じぬ干ばつのない、水不足で苦しむ人のいない本当の意味での「水の惑星、地球」になるよう、僕は僕にできる活動を続けていきたいと思う。